

第33回北とぴあ若手落語家競演会 大賞受賞！ 柳家吉緑さんインタビュー

2022年9月11日（日）北とぴあつつじホールにて、「第33回北とぴあ若手落語家競演会」が開催されました。出演された六名全員がそれぞれの持ち味を存分に活かした高座を披露。観客投票の結果、柳家吉緑さんが北とぴあ大賞に選ばれました。

まずは、北とぴあ大賞を受賞された率直な感想をお聞かせください。

正直驚いていますね。賞レースは順番がかなり大事なので。お客様から拍手をいただき、（二番目の口演だった）自分ができることはやれたかなって、悔いはないんです。でもその後の方々を聴いていて、会場の盛り上がりが本当にすごかったので、これは自分がお客さんだとしたら（自分の高座のことは）忘れるなと思ったんですけどね。でも、二等でも何でもいいからいただけるものはいただきたいと思っていました。林家つる子さんが奨励賞と発表された瞬間に諦めていたので、直後に自分が大賞だと発表されて気分の浮き沈みが激しすぎるというか。本当にありがたいです。



▲左から大賞の吉緑さん、ゲストの三三師匠、奨励賞のつる子さん。

出演者の皆様6名が勢ぞろいされた楽屋の雰囲気はいかがでしたか。

本日は香盤が近い芸人が揃ったんです。六人でみんな芸歴二年以内ぐらいの。所属する協会は違いますが、みんな前座の時から知っています。自分が所属する落語協会の三人は仲がよく、落語芸術協会の三人とも仲が良いんです。六人全員が一緒の楽屋になるのは初めてですけどね、結構和気あいあいとしていました。ぎすぎすってことは全くないですね、はい。よかったですよ、楽しくて。

ではその中で、なぜ今回の演目（天狗裁き）をお選びになったのですか。

お客様が審査員となる競演会は、あまりにシニールすぎるなど、聴く人を選ぶ噺はあまり向かないと思います。この演目は誰が聞いてもわかりやすく、最後に向けてどんどん盛り上がっていく、脚本がよくできた噺なんです。サゲにもどんでん返しがありますから。自分の持ちネタで、制限時間（15分）に合った中では、一番自信のある噺を選びました。

大賞受賞を一番に報告したい方、またどのように報告したいですか。

師匠です。このインタビューが終われば、真っ先に電話して伝えます。明後日また師匠とお会いできるので、その時にまたちゃんと報告します。

副賞（10万円）の使い道は？

まだ考えていないんですけどね、難しいなあ。家賃にだけは消えないように、もっと有効な使い道を考えたいと思います。

最後に、今後どのような落語家を目指されていきますか。

とにかく、お客さんに喜んでもらえる落語ができる芸人になりたいです。初めて落語を聴く人にも、落語が好きな人にも、楽しんでもらえるような、バランスの取れた落語家になりたいですね。笑える噺から人情噺まで、色々な落語をやっていますので、「この人の落語を聴きに行けば間違いない」と言っていたような噺家になりたいと思っています。



▲演目「天狗裁き」ははどんな夢見た？と周囲から尋ねられて困る男の噺。

第33回北とぴあ若手落語家競演会 2022年9月11日（日）14時開演
【出演】桂鷹治、柳家吉緑、瀧川鯉白、林家つる子、桂竹千代、古今亭志ん松（口演順）
【ゲスト】柳家三三【司会】サンキュータツオ（米粒写経）